

日本心エコー図学会 理事長

中谷 敏 先生

## **European Association of Cardiovascular Imaging (EACVI) Heart Images of Tomorrow (HIT) ambassador for Japan としての、EuroEcho Imaging 2019 の参加報告書**

前任の片岡先生から EACVI HIT ambassador Japan の役を引き継がせていただきました現 West Virginia University の鍵山暢之です。この度は EACVI と日本心エコー図学会の若手の懸け橋として重要な役に任命して頂き、光栄に存じますと同時に身の引き締まる思いを感じております。

2019 年 12 月 4 日から 7 日にかけて、オーストリア、ウィーンで開催されました EuroEcho Imaging 2019 に HIT ambassador として初めて参加をしてきましたので、ご報告させていただきます。EuroEcho はこの数年はヨーロッパの国を中心として 4000 名以上の参加があり、American Society of Echocardiography (2019 年の参加者は約 2600 名) を超えて参加者が最大の循環器画像診断の学会となっています。私は今回アメリカから参加しましたが、プログラムには北米の医師も多数ふくむ世界中の高名な先生方が名を連ねており、まさに名実ともに世界一の循環器画像診断学会にふさわしい貫禄を感じました。

以前に片岡先生からもご紹介されておりましたが、EACVI HIT は European Society of Cardiology (ESC) の画像部門支部である EACVI のさらに下部組織として、40 歳以下の医師、もしくは研修中ないしパラメディカルの方々によって構成される若手部門のような組織です。HIT 会員数は発足から右肩上がり、現在は 2766 人とそれだけで一つの学会クラスの人数を擁しています。各国の ambassador からは、昨今の SHD の発展でヨーロッパでも画像専門医に対する需要と関心が高まっており、若手も画像専門医を目指すという人が増えているとの声が聞かれましたし、また HIT 会員になると EACVI の年会費が約半額になるなどの特典が会員数の増加につながっていると思われまます。



写真: 会場はどこも満員で若手の熱気にあふれていました。筆者も右心系の心エコー図評価に関して一つ講演を担当させていただきました。

学術集会でも HIT は年々存在感を増しており、workshops や how to sessions など、学術集会全体の 40% 程度のセッションの運営が完全に HIT に任されています。それらのセッションでは重鎮と言われる先生方に交じり、各国から 30 代の若手医師も多数教育講演を行っていましたが、質の高いセッションを保っているのには本当にヨーロッパ心臓画像診断の層の厚さを感じさせられます。本年は HIT President の Matteo Cameli (Italy) から HIT 初の多施設共同研究である MASCOT study (左房ストレインの測り方に関する研究) の結果が Late Breaking Science Session で発表されるなど、学術面でも若手が一丸となって結果を出しているのが印象的でした。

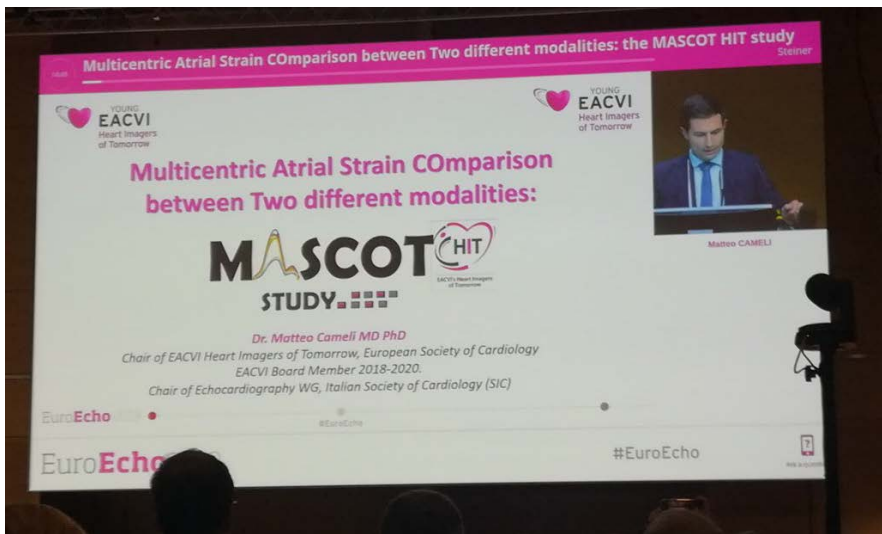


写真: HIT による初の多施設共同研究 “MASCOT study” を late breaking session で発表する HIT chair の Dr. Matteo Cameli

またポスターセッションも他の学会とは一線を画しており、ほとんどすべてのポスターセッションに **senior** の先生方と **HIT** 世代のメンバーの混成からなる 4-5 人程度の **discussant** が必ず質疑に回ってきます。よく海外学会で見られる、ポスターを張ったのはいいけれどほとんど質問も受けられずに寂しい思いをすることはなく、また少人数でフレンドリーな雰囲気のため、個人的には若手医師の国際学会デビューとしては非常にいい環境であると思います。

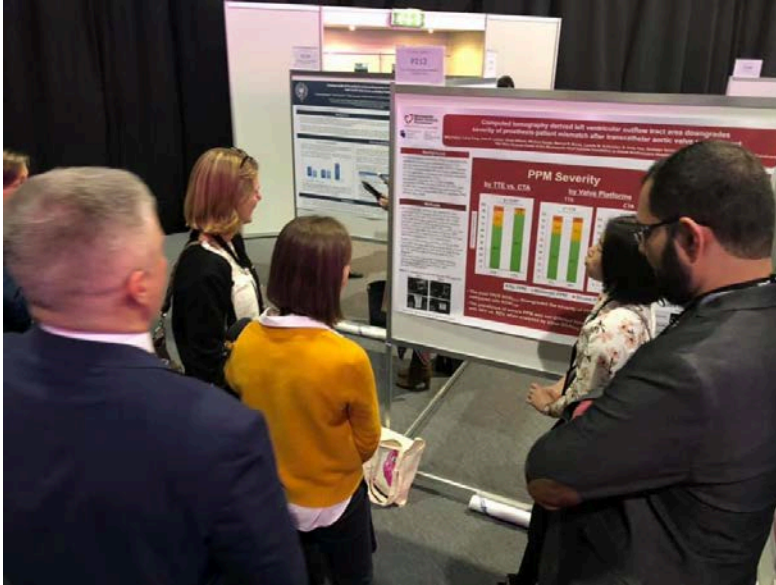


写真: ポスターセッションの様子。数人の **discussant** が教育的なコメントをくれる。説明しているのは **Minneapolis Heart Institute Foundation** 留学中の福井美保先生。

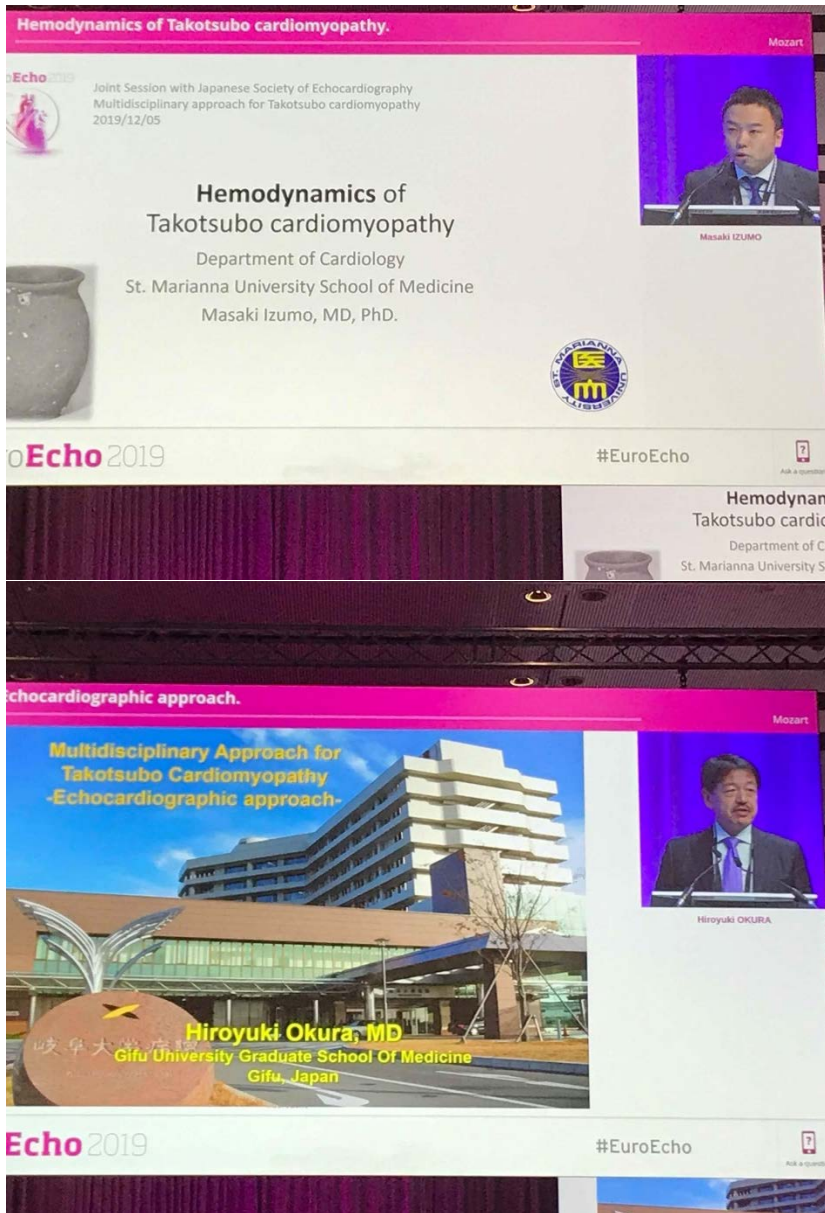


写真: JSE-EACVI ジョイントセッションで発表される大倉宏之先生、出雲昌樹先生。

日本からも多数の先生方が参加されており、中谷先生が座長を務められた JSE と EACVI のジョイントセッションでは大倉宏之先生や出雲昌樹先生がたこつぼ心筋症の様々な亜型や症例に関して発表され、聴衆から多くの質問を受けておられました。また日本心エコー学会 YIA winner の守山英則先生、ASE YIA winner の私に加えて、本年は Oregon Health & Science University に留学中の小澤公哉先生が EuroEcho の YIA Finalist として選ばれており、いつも以上に日本人の存在感を強く感じさせられる学会でした。



写真: EuroEcho YIA (basic science 部門) に選出された小澤公哉先生 (最右)



写真: International YIA session にて発表した守山英則先生 (中央左) と私 (中央右)

個人的には EuroEcho はこのところ毎年参加しておりますが、ポルトガル、ミラノ、ウィーンなど ESC のような大きな学会ではなかなか会場にならない都市にいけるのも一つの楽しみです。またこの時期ヨーロッパではどこでもクリスマスマーケットが開かれており、寒い中きれいに飾られた街でクリスマスの飾りつけやホットワインに舌鼓をうつのも一つの楽しみとなっております。来年から EuroEcho は形を変えて EuroCMR とともに EACVI 2020 という学会になるようです(12月にバルセロナ、スペインにて開催予定)。また多数の先生方にお会いできるのを楽しみにしております。

日本人はなかなか英語の壁が高く十分に学術的なポテンシャルを発揮できないことがありますが、とにかく恥ずかしくがらずに喋っていけばなんとかなることが多いと思います。今回私の

ような未熟者が ambassador に選出していただいたのは、とりあえず他国の人とも話してみたり、知らないコミュニティに混ざってみたりという（無謀な）積極性を買っていただいたのかと思っております。HIT ambassador も心エコー図以外の画像専門医の枠もありますし、日本の若手でもまた積極性のある先生方がいればぜひ一緒に、片岡先生が作ってくださった HIT との懸け橋をさらに強めていければと思っております。

長文になりましたが以上で 2019 年 EuroEcho の報告を終わらせていただきたいと思えます。最後になりましたが、今回の ambassador 引継ぎに関しまして、ご推薦いただきました先生方、また引継ぎの手続きをしていただきました心エコー図学会事務局および委員会の先生方に厚く御礼申し上げたいと思えます。どうか今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

鍵山暢之

West Virginia University Heart and Vascular Institute